

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200709		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家 優林・森和(優林)		
所在地	札幌市東区北35条東28丁目9-11		
自己評価作成日	令和3年9月27日	評価結果市町村受理日	令和3年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190200709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190200709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の小学校から小学4年生が総合学習の一環として来訪されたり、町内会夏まつりに職員、利用者の方たちが参加され地域交流を行っています。併設の小規模多機能型居宅で行う行事に利用者の方が数名参加したり、ユニット合同でドライブ外出や流しそめんをするなど利用者間の交流も随時行っていました。現在はコロナ禍により中止せざるを得ない状況です。  
 利用者の重度化に伴い集団的な活動支援は限られ個別ケアの支援が多くなっていますが、本人のペースに合わせた支援を心掛けています。  
 今年よりICTを導入し生活記録などの業務のスリム化を目指し、職員の意見などを取り入れながら業務改善へ向けた取り組みをユニット毎に行っています。  
 法人内で身体拘束適正化委員会を設置しグレーゾーンを含めた身体拘束について意見交換や報告をしたり、定期的な勉強会を行い職員の理解と意識づけにつながるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームもえれのお家 優林 森和」は、バス停から近い静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。同法人の小規模多機能ホームが併設しており、運営推進会議や防災訓練を共同で行い協力体制を整えている。例年は町内会のお祭りや清掃活動に利用者も参加し、近くにある小学校の4年生や、ボランティアの来訪があり住民と積極的に交流している。また日常的に散歩や個別の買い物で近隣住民と自然に触れ合い、季節ごとの催しや外出行事もある。令和2年から新型コロナウイルス感染の流行で外部者と交流する機会は難しいが、周囲の散歩や個人的な買い物などで外気に触れている。事業所内ではレクリエーションの中でホットケーキ作りなども楽しんでいる。職員研修では事業所内で年間計画のテーマに沿って学び、リモートで法人研修に参加している。ケアマネジメントでは「情報通信技術」を導入し、職員はタブレットの使用で記録し、介護計画目標の達成度や変化なども抽出でき見直しに活かされている。担当職員のモニタリング評価をもとに計画を作成し、個別の思いに沿って可能な限り対応をしている。医療面では、かかりつけの医療機関を継続し、通院、また訪問診療で看取りも行い、感染防止を徹底して居室で家族と会えるように配慮し、職員の細やかで柔軟な対応は安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活を理念に掲げ、事業所内に掲示、職員間で共通し実践に心掛けている。時には理念に目を向け、自身の行動を振り返ることがある。以前ユニット職員間で考えた理念を見やすい場所に掲示している。	法人共通の基本理念に地域での暮らしを支える内容を掲げて、住民との交流を図っている。カンファレンスの際に理念に沿って対応を確認することもある。職員は掲示してある理念や利用者に接する時に内容を意識してケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動で街路樹の花壇作りを行ったりSOS子供110番の店として登録している。町内会行事等で地域交流を行っていたが、コロナ禍の影響で行えない状況である。	感染症の流行で外部者と触れ合う機会は難しいが、町内会の清掃活動に職員が参加して関係を築いている。近くにある小学校の4年生が認知症を理解する授業で来訪していたが、今後も感染症収束後の来訪を利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の小学校の交流会を通し認知症の人と接する機会があったが、コロナ禍の影響で中止している。また以前行っていた福祉除雪の依頼があれば対応していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、現在は資料配布による書面会議に切り換えて実施している。事業活動や状況報告などの内容になっている。	書面会議を行い、感染症への対応、避難訓練、職員研修、外部評価の結果など事業所の取り組み内容を報告している。構成員から書面で意見などを得て参考にしていく。会議の再開時には参加ができない家族の意見も反映したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要時行政担当者や関係機関と連絡を取り、確認や報告、手続き支援をしている。生活保護課担当職員と利用者の情報交換を行っている。	運営や制度的なことは法人事務部で行い、情報の共有とともに市からの感染症などに関する調査に協力している。管理者は介護認定更新時や、おむつサービスなどで区の担当者に確認し、保護課担当者とはその都度の連絡で連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止委員会を設置し、年2回の研修のほか3ヶ月毎に委員会を開催し、随時身体拘束の指針を追記作成している。委員会の内容報告や職員間で話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人に設置している身体拘束廃止委員会には構成員として参加し、報告をもとに各ユニットで勉強会を開いている。また法人研修では職員アンケートを収集し、対応などを学んでいる。具体的な禁止行為の確認やスピーチロックをテーマに学び、利用者の言動を見て柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、知識を深めている。日々のケアを意識しながら不適切ケアの防止に努めている。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるが、制度について学ぶ機会は少ないと思う。制度を活用できるよう知識を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っており、利用者様やご家族から不安や疑問点などを確認し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話連絡時などで意見や要望を聞き取っている。家族からの何気ない言葉や職員の気づきを反映させていきたい。	感染防止から主に電話で対応しているが、玄関内のガラス越しで本人とも会える。また看取りの時は消毒などを徹底し短時間でも居室で過ごせるように配慮している。今後は数か月ごとの通信の他、普段の様子をメッセージで届けたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にも意見や提案を聞く環境にある。また定期的に個人面談の機会があり、意見を伝えている。	毎月のカンファレンスでは業務やケアなどの意見を活発に交わし、職員の提案を活かしている。また会議では研修や計画の見直しも行っている。管理者は常に職員の意見に耳を傾け、業務の役割分担で意欲的に働くことができる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は随時整備され、いつでも閲覧できる。職員の資格取得には助成の活用や休み希望も反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で職員主体の勉強会を月1回行い取り組んでいる。コロナ禍のため外部研修は少ないが、研修案内は随時ある。参加職員には伝達講習をしてもらい人に伝える訓練をしながら知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は他法人の方と交流する機会はほとんどない。管理者は管理者会連絡会議等で交流する機会はあるが、現在はコロナ禍のため会議は中止となっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報をもとにご本人の不安や要望に耳を傾けながら、本人との信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との面談や連絡を通して、不安や要望を聞き、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と連携や情報収集を行っている、本人や家族の意向を確認し必要な支援の見極めとサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを行い、職員と利用者が互いに支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時には本人の日々の様子を伝えている。必要に応じて話し合いを行いながら、本人と家族関係を大切にしながら共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため面会制限や外出支援は出来ていない。オンライン面会を導入しているが、利用しているご家族は少ない。友人と電話で会話をされる方もいるが要望があれば支援が出来る体制にある。	感染症の流行前は知人との交流もあったが、現在は電話で友人との会話を楽しんでいる。職員同行で近くのコンビニエンスストアで雑誌を買う利用者や、また編み物が好きな利用者には趣味が続けられるように支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度が高い利用者が多くなり、利用者同士の関わりは少なくなっているが、利用者同士の関係を把握し関係悪化しないよう環境整備を行っている。必要な場合は職員が介入しながら関係性を維持している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば必要に応じた支援に努めていくが、現在のところ要望がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難になっている利用者が多くになっているが、職員間で本人の意向把握に努め本人本位に検討している。	日常の会話や仕草などから思いを把握し検討している。趣味、嗜好、暮らし方の習慣を「生活スタイル情報」シートに収集し、新たな情報も追記している。意向などは介護計画書(2)に載せている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報や生活歴シートのほかに本人やご家族の会話の中からこれまでの本人の生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の一日の過ごし方や活動を生活場面の中で本人の表情や様子の変化を観察や記録に残し、心身の状態や生活機能などの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状態の変化等で家族や医療関係者等と話し合い、それぞれの意見や要望等をふまえ、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。緊急案件はミニカンファレンスで意見交換をしている。	利用者の状態によって1か月～3か月間隔で計画を見直している。担当職員がモニタリング評価を行い会議で意見交換後に介護計画を作成している。記録類はタブレットで行い、計画の実施状況など課題の抽出で変化なども見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ICTの活用や管理日誌等で職員間で情報共有している。日々の様子やケアの実践、状態変化など介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや生け花、傾聴ボランティア等個別に柔軟な支援を行っていたが、コロナ禍のため外部サービスは中止している。法人内の訪問リハビリは継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の小学校や町内会行事への参加を通して交流をしていたコロナ禍のため中止となっている。今後も新たな地域資源の把握、活用をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を大切に、心身の状態を見極め、かかりつけ医に相談しながら適切な量量が受けられるよう支援している。かかりつけ医との連携は常に密に対応している。	基本的にはかかりつけ医を継続し、受診が必要な場合は事業所に対応している。協力医療機関の訪問診療のほか、かかりつけ医の訪問診療を受けている利用者もいる。受診内容はパソコンで管理しているが必要な情報はコピーして共有している。	

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師はおおむね週1回来訪、体調変化や気づきを相談している。また主治医の特別指示書により、点滴や皮膚処置などの対応をした方もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者と計画作成担当者が中心となり、医療関係者と情報交換や相談を行い、早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期の段階から必要に応じてご家族と主治医、事業所で話し合いの場を設け、今後の治療方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	利用開始時に重度化対応や看取り指針を文書で説明し同意を得ている。状態の変化から関係者で方針を共有し、終末期には個別の同意書をもとに現在2名の看取りを行っている。研修で看取りケアを学び、看取り後も振り返り内容を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアル、個別の緊急シートを作成しているが、実践力を身につける必要がある。個別対応も想定しながら応急手当や初期対応の訓練を行う必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や自然災害訓練は定期的実施、避難方法を身につける訓練をしている、地域との協力体制づくりは築いていない。	併設の事業所と合同で実施し、感染症防止から自主訓練となっている。火災訓練、水害を想定した避難誘導を行い、地震想定で夜間対応をグループワークで確認している。今後も日中を想定し各ケア場面での対応を更に検討したいと考えている。	地震を想定した各ケア場面での対応を利用者ごとに記録し、災害マニュアルをもとに状態の変化に応じて見直すことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として個人のプライバシーや人格を尊重した声かけや配慮した対応を心掛けている。	打ち合わせは個人が特定できないように指差して行っている。適切ではないような声かけがあれば、その都度改善できるように導いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の状態を見極めながら、可能な限り本人の思いや希望、自己決定ができるよう対応を心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが入浴や食事時間など施設側の都合で行っている。本人の希望がある場合は本人の想いを優先し対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や想いを汲み取り支援している。季節にあった服装の選択ができるよう本人の好む身だしなみができるように支援している。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握したり食事形態の工夫をしている。出来る力を活かしながら負担にならない程度に盛付けや片付けなど能力に合わせて行っている。	普段の食事では利用者の好みによって食材や調味料を変えている。また、レクリエーションとしてうどんを打ったり、ホットケーキを作り楽しみながら食事をする事ができる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や栄養バランスが確保できるよう、また必要な利用者には水分にトロミをつけたりソフト食提供で負担なく摂取できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを極力本人の能力に応じた支援を行い、清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い可能な限り自立に向けた支援を行っている。	昼間は車いすの利用者も含め、身体状況に合わせて可能な限りトイレでの排泄を促している。さらに、トイレが各居室から近くに設置していることも自立支援のひとつとなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら、日常的に乳製品など摂取や運動の声掛けをしているが、必要に応じて下剤調整をしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	施設側の都合で午前中の時間帯、週2回以上の入浴支援をしている。身体状況によりシャワー浴や清拭対応の方もいるが、気持ちよく入ってもらえるよう心掛けている。	利用者の都合に合わせて入浴時間の変更などに対応している。お湯は状況を見て入れ替えをし、入浴中には話をしたり歌うことでストレスなく楽しく入浴ができるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて日中でも臥床して頂いたり安眠できる支援を心掛けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬情報を確認したり内服薬について理解している、時には再確認や職員間で話合うこともある。服薬支援を安全に行い症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の行事や月1回のレク行事を行い楽しみをもてるよう支援している。個々の楽しみや役割、気分転換が少しでもできるよう心掛けている。			



グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(優林)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため受診以外の外出支援は現状できていない。	感染症予防のため、外出することが制限されているものの、感染防止対策を取ったうえで近所の散歩やコンビニエンスストアへの買い物に行っている。感染症が流行する前は、紅葉や花見などで伏古公園や安春川へ外出をしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理している。買い物の要望があれば支援に努めていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者があるが使用していない。要望があればいつでも支援できる体制もあり、時には友人と電話で会話をするため支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度の管理に努めている。玄関や共用フロアは季節を取り入れた装飾をしたり快適で心地よい共用空間に努めている。感染予防のため室内の換気や消毒等を行い、安心安全に努めている。	食堂とリビングが仕切られていて、食事が終わった利用者はリビングでくつろぐことができる。食堂とリビングは壁ではなく格子で仕切られているため、開放感がある造りになっている。共用空間には、利用者と職員と一緒に製作した季節の飾りが装飾されていて季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に十分配慮しながら、配置換えや居場所の確保をしているが、利用者の関係性によりレイアウトを見直している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に写真を貼ったり出来る限り使い慣れたものの中で居心地よく過ごせるよう、本人やご家族の希望と本人の身体状況に合わせて工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けてあり、収納に便利である。利用者は居室の壁に家族の写真やカレンダーなどを飾り、個人の趣味のものやテレビ、仏壇、ぬいぐるみなどを持ち込んでいて過ごしやすい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示や手摺り設置、必要時スポットライト使用、暖房に柵設置など自立した生活ができる環境になっている。個別対応で伝い歩行ができるよう動線上に椅子を置き安全に移動できる工夫もしている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200709		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家 優林・森和(森和)		
所在地	札幌市東区北35条東28丁目9-11		
自己評価作成日	令和3年9月27日	評価結果市町村受理日	令和3年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190200709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190200709-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の小学校から小学4年生が総合学習の一環として来訪されたり、町内会夏まつりに職員、利用者の方たちが参加され地域交流を行っています。併設の小規模多機能型居宅で行う行事に利用者の方が数名参加したり、ユニット合同でドライブ外出や流しそめんをするなど利用者間の交流も随時行っていました。現在はコロナ禍により中止せざるを得ない状況です。  
 利用者の重度化に伴い集団的な活動支援は限られ個別ケアの支援が多くなっていますが、本人のペースに合わせた支援を心掛けています。  
 今年よりICTを導入し生活記録などの業務のスリム化を目指し、職員の意見などを取り入れながら業務改善へ向けた取り組みをユニット毎に行っています。  
 法人内で身体拘束適正化委員会を設置しグレーゾーンを含めた身体拘束について意見交換や報告をしたり、定期的な勉強会を行い職員の理解と意識づけにつながるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活を理念に掲げ、職員間で共有できるようにスタッフルームに掲示し、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	SOS子供110番の登録をしている。感染症予防の為今年度の交流は開催されていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症予防のため、近隣小学校との交流や認知症サポーターの養成講座の開催が今年度は行えていない。他の支援として近隣住民の福祉除雪の依頼があれば対応していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回書面会議にて開催している。事業運営活動や利用者様の状況を報告し構成員の方々からご意見や要望を頂き、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が必要時行政担当者や地域包括支援センターと情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で委員会を設置し、定期的な研修会や委員会を開催している。職員へアンケートを行い結果をもとに、身体拘束と思われる行為について委員会で検討をし、会議、議事録にて検討内容を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等に参加し、スピーチロックとフィジカルロックに注意し、言葉遣いや関わり全てにおいて不適切なケアの防止に努めている。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解を深めるため内部研修、勉強会で知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っており、利用者やご家族から不安や疑問点などを確認し、書面や連絡で説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防のため面会制限があるなかでも、ご家族の来訪時や連絡時、ご家族の意見や要望などを確認し、今後のケアに反映するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の職員面談と、日常業務の中で意見や提案を確認し必要時には個人面談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は閲覧できるよう整備されている。委員、係など役割を決め、やりがいや向上心を持てるよう努めている。ICTを導入し記録等の簡素化し、職場環境の整備に努めている。資格取得が必要な職員に助成金を活用し、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で職員主体の勉強会を月1回行い取り組んでいる。外部研修への参加も、対象者や希望者に参加できるよう掲示し参加を進めているが、今年度はオンライン研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者連絡会議等で交流を図り、活動の報告をしていたが、感染予防のため会議は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報やアセスメントを通してご本人の不安や要望をともに考えている。情報を職員で共有し、ご本人が入居してからも安心できるような信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面談などを通して、自宅での様子や不安、要望などを聞きながら情報収集の時間を設けて信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関と連携や情報収集を行い、初期段階で必要な支援の見極めと必要なサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペース、要望に合わせ家事活動や余暇活動など支援し、生活を共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や連絡時に近況報告をしたり、ご本人とご家族が連絡を取りたい時には連絡をしている。ご本人とご家族の絆を大切にしながら共に支え合う関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限があるが、ご家族の面会時は居室などでゆっくり過ごして頂いている。ご本人とご家族と手紙のやり取りをされている方もいる。今後も関係が途切れないように支援に努めていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士共通の話題を会話に取り入れたり、テーブル席の配置、歌やレクを通して関わりを持って、良好な関係を築く支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば必要に応じた支援に努めていくが、現在のところ要望がない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やしぐさ、ふとした言動や行動からご本人の思いや希望を聞き、職員間で検討している。本人が表出できない場合、表情や仕草などから観察し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の書式を整理し、基本情報の他に、ご本人やご家族から新しい生活歴の情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活場面の中から出来ること、出来ないことを見極め、ご本人に確認している。また生活記録や毎日の申し送り情報で共有し、一人ひとりの状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状態の変化等で家族や医療関係者等と話し合い、それぞれの意見や要望等をふまえ、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や管理日誌、連絡ノート、月1回のカンファレンス等で職員間で情報を共有しながら、ケアの実践や改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問理容、訪問マッサージなどの対応をしている。利用者の必要なサービスに対応できるよう柔軟に支援していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出の機会が少なくなったが、天気の良い日には散歩や買い物に出かけ外出する機会を持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医による訪問診療や受診など職員が対応。ご家族同伴の元受診できる環境を整備し、かかりつけ医が入居後も変わらずに、適切な医療を受けられるようにしている。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来訪し体調の変化や気づきを相談し、状態変化がある場合にはすぐに連絡し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり、医療関係者と情報交換や相談を行い、必要時早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期にご家族と主治医、事業所で話し合いの場を設け、家族の意向を確認しながら事業所で行えることを説明、今後の方針を共有しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は実施していないが、ご利用者ひとり一人の既往歴を確認し、急変や事故発生時には主治医に相談し初期対応がスムーズにできるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回定期的に実施、自然災害を想定し1階から2階へ避難する訓練を実施した。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重を大切に、スピーチロックにならないよう言葉の置き換え、馴れ合いの言葉かけをしないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しいご利用者もいるが、言葉かけを工夫し表情や仕草からくみとり、ご本人の思いや自己決定、選択ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のその日の身体状況に配慮し、一人ひとりのペースや好みに合わせた時間を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、季節に応じた服装や好みの色などは本人の生活歴、希望を聞きながら支援している。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、下ごしらえや盛り付け、片づけなど職員と一緒にこなしている。旬の食材をメニューに取り入れ、個々の食事形態に合わせた食事を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとり食事量や水分量を記録している。発熱時や食事、水分がすすまない時は時間を変えたり、補食を提供をして利用者の状況に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けや能力に応じた支援を行い、清潔保持、口腔内の健康に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の希望や様子を観察し、可能な限りトイレでの排泄ができるようにしている。一人ひとりの排泄記録を活用し、排泄パターンに合わせ支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や日常的に乳製品摂取、適度な運動の言葉かけをしている。排便状況に合わせ、必要時は主治医と水分量や下剤の調整をし予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴は毎日午前中に入浴できるようにしている。急な受診や職員都合で午後からの入浴になる時もあるが、ご本人の体調や希望に合わせて入浴やシャワー浴対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないなど状況に応じて、日中でもソファやベッドに臥床して頂いている。優しい明かりや音楽、アロマの加湿器を使用し気持ちよく眠れるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容と副作用について、把握は難しいが全員が周知できるように、個人ファイルに薬の内容を整備しすぐ確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みに応じて、買い物、散歩、歌、編み物、読書、塗り絵、作品作り、家事活動など行い役割をもてるように支援している。		

グループホームもえれのお家 優林・森和

自己評価	外部評価	項目	自己評価(森和)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防対策を行いながら、利用者のその日の希望に合わせた外出を支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会、電話ができる環境にあり活用している。ご本人の希望で電話を利用したり、ご家族と手紙のやりとりをされている利用者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は適切な温度や湿度を管理している。明るさや食事のにおいなど家庭の雰囲気を感じたり、なじみの音楽を流すなど心地よい共用空間に努めている。季節感を取り入れた作品は毎月利用者と職員とで作成し装飾している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、ソファやダイニングなどで過ごして頂けるよう、家具などの配置換えを行い、利用者同士がストレスを感じないよう言葉かけし、居心地の良い空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅で使いなれた家具、仏壇やご家族との写真、馴染みの物を飾るなど落ち着いて過ごせるよう、ご本人やご家族の希望に合わせた工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示や手すり設置、スポットライトを活かして安全に移動できるよう動線を確認し、自立した生活が送れるように支援している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家 優林・森和

作成日：令和 3年 11月 2日

市町村受理日：令和 3年 11月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災、水害を想定した避難訓練を実施していますが、地震を想定した避難訓練は取り組めていませんでした。	地震発生時の職員の動きについてルール作りをし、それを元に避難訓練を実施していきます。	各場面(入浴時、トイレ使用时、居室など)で地震が発生した時の職員の動きを職員間で話し合い、意見交換をしていきます。話し合いを元に、各場面に応じた地震時の動きを確認、ルール作り地震発生時の対応を安全に行えるようにしていきます。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。